

特別栽培米研究部会 活活楽楽篤農クラブ  
IKIIRAKURAKUTOKUNOUCUB

特別栽培米  
環境こだわり農産物

# 2018年 栽培日記

JA滋賀蒲生町



## Vol.3 ハウスめぐり編

(2018.04.20)

天気の良い日は、早くも夏を思わせるような気候になる日もある中、育苗センター内の出芽室に保管された苗箱から順調に出芽し、次は生育するために苗箱をトラックで育苗用ビニールハウスへと運びます。運んだ苗箱は職員が手作業でハウス内に並べ、田植えが出来る状態まで大切に育てられます。

**ハウスめぐり**(苗箱ならべ)は、苗箱を1日に何千枚も手作業で並べるためたくさんの人手が必要となります。猫の手も借りたいほどです。JA全職員が当番制で出役し、対応します。力仕事でも女性職員もいちがんと張り切って苗箱を運んでいます。苗箱は育苗センターからハウスまでトラックでピストン輸送し、運ばれた苗箱をハウス内に降ろして並べます。今年は、昨年よりも気温が高い日が多く、いつもよりハウス内の高温が熱く感じます。吹き出る汗を拭きながらの作業で大変ですが、熱中症に気をつけながら、しっかり水分補給しながら職員一同頑張っています。

苗箱を並べ終わったら、ハウス内のスプリンクラーで30分しっかりと水やりをします。その後、苗箱に白いシート(健苗シート)を全面に敷きます。これも手作業なのでシート敷きも大変です。健苗シートは、太陽光を遮断することにより苗焼けを防ぎ、保温効果によって苗の成長を助ける効果があります。ただの白いシートなのですが、良い苗づくりに健苗シートは欠かせないません!数日後には、健苗シートをめくると緑化苗に成長し、引き続きハウス内で育てます。苗の引き渡しまで、もう少しかかります。



↑トラックで運ばれてきた苗箱



↑トラックから苗箱を運ぶ職員



↑ハウス内に並べられた苗箱



↑苗箱が見えないように健苗シートを敷く職員



↑綺麗に敷かれた健苗シート



↑ハウスめぐり数日後、成長した緑化苗